第31回

第31回日本癌病態治療研究会を開催するにあたって

第31回日本癌病態治療研究会
当番世話人
徳島大学消化器・移植外科学 教授
島田 光生

第31回日本癌病態治療研究会
事務局長
西　正暁

この度「第31回日本癌病態治療研究会（The annual meeting of Japanese Society of strategies for Cancer Research and Therapy）」を令和４年６月23日（木）、24日（金）に、アオアヲナルトリゾート（徳島県鳴門市）において開催させていただくこととなりました。貴重な機会をあたえていただきました松原理事長はじめ会員の先生には心より感謝申し上げます。

本研究会は、1991年に初代磯野可一会長らを中心に立ち上げられ、癌の病態や治療法に関する調査、研究を行い、その病態や癌患者の臓器の悪性度にあった治療、宿主側の生体反応にあった治療法の確立を目指し大きく発展してきました。国民の死亡原因の第１位を癌が占めるわが国では、平成19年に施行されたがん対策基本法において、癌研究の推進が基本的施策として取り上げられており、本研究会による癌制御に関する研究の推進は、わが国の対策の基盤となる活動でもあり、社会に大きく貢献できるものと考えております。

また近年、若い医師が専門医を目指して懸命に臨床医学の研鑽を積む姿を見ると、将来の臨床医学の発展にとって心強いことであると感じる一方で、本研究会の中心的な活動である基礎医学についても、同様に情熱を注ぐことができ、国際的な競争の中でわが国の癌研究を一層発展させていけるような環境を整備することの必要性を強く感じております。

今回、「New Normal 時代の癌病態研究」をテーマとさせていただき、癌病態に関する本邦・世界の医療全体の発展へと寄与できるような研究成果を発表する場とすべく鋭意準備中でございます。癌病態研究における New Normal は、従来の癌細胞を標的とした研究・治療から、腫瘍微小環境・腫瘍免疫に焦点を当てた研究や AI・ゲノム医療への drastic な変容そのものであると考えております。特に、がん免疫療法におけるバイオマーカーの同定や、AI を活用した Radiomics、ICT を駆使した診療診断支援と、そのデータをもとにしたトランスレーシ

写真１
LET’S DANCE
AWAODORI！
© 猿楽社

第 31回
日本癌病態治療研究会
https://society-form.
com/jsct31/

ョナルリサーチなどが新たな癌病態研究の発展の鍵となると考えています。New Normal の視点から癌病態研究の課題とソルーションを明らかにすることで、新たなイノベーションのヒントが出てくる研究会にしたいと思っております。今回、皆様の臨床、研究の一助となるようシンポジウムとしましては、①腫瘍微小環境研究、②バイオマーカー研究、③がん免疫療法の基礎と臨床、④癌に対する低侵襲治療、⑤癌と腸内細菌、⑥消化器癌に対する Conversion Surgery を準備させていただきました。新しい時代を迎えた癌病態研究と最新の知見について活発なご討議をいただければ幸いです。

ホームページ（https://society-form.com/jsct31/　QR コード）ではリモート阿波踊りにおける“New Normal 時代への転換点”を表しております。徳島伝統の阿波踊りも COVID-19 により、この２年、中止・縮小を余儀なくされております。昨年には世界の人々と阿波踊りを楽しもうという趣旨で、リモートイベント『LET’S DANCE AWAODORI！』が開催されました（写真１）。阿波徳島の地で数百年続く阿波踊りが、New Normal 時代に対応する形で変貌している様子をお感じいただければと存じます。

COVID-19により、第29回研究会は誌上開催となり、第30回は WEB 開催となりました。第31回研究会開催形式につきましては、３年ぶりの現地開催を予定しておりますが、今後の感染状況を見て、判断しなければいけないかと存じます。COVID-19禍がいまだ終息しない中での研究会となりますので、New Normal 時代の新たな研究会のあり方を模索しつつも、ぜひとも現地開催による対面での熱い討論と、阿波踊り前の初夏の風情一杯の徳島にて、New Normal 時代の“お・も・て・な・し”を行うべく教室員一同、心より歓迎したいと思っております。多くの先生方のご参加を心待ちにしております。